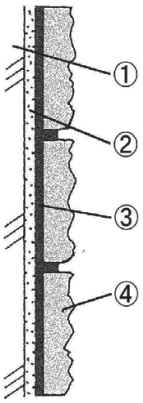
抗火石（ネオエックス）

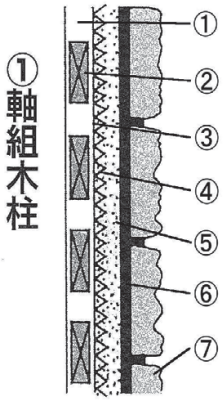
●あらかじめ下地を清掃し、ハイフレックス等接着増強剤を製品指定の希釈率にて塗布して下さい。
●原則としてセメントモルタルで貼り付けて下さい。標準としてセメント1対砂3（容積比）で配合し、
その際、増強添加材としてポリマー類（例：マーボローズ、メトローズ、ハイフレックス等）を混合してご使用下さい。
※ボード下地の場合は、ネオエックスの接着面を充分乾燥させた後、弾性接着剤で貼り付けて下さい。各下地材の許容荷重は厳守下さい。
※石膏ボード、ALC下地への貼付は絶対に避けて下さい。
※石厚が25mmを超える製品は、㎡重量が重くなりますので、コンクリート下地を推奨いたします。

■コンクリート下地



①コンクリート
②下地均しモルタル
③接着モルタル
④ネオエックス

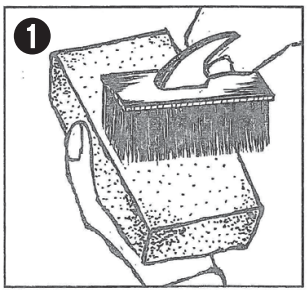
■木下地／住宅外装



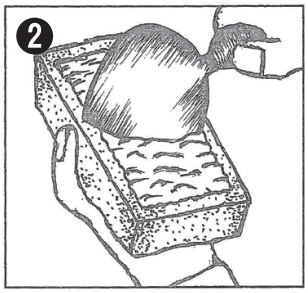
①軸組木柱
②下地板
③防水フェルト
④ラス金網
⑤下地モルタル
⑥接着モルタル
⑦ネオエックス

※石厚25mmを超えるものは重量の問題で
通常RC面やPC板以外には貼付不可です。

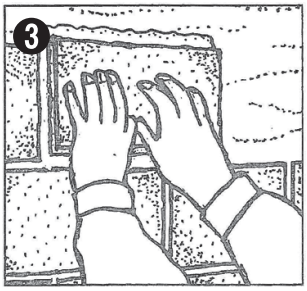
■接着



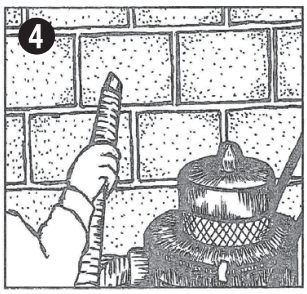
接着不良の原因となるので、ネオエックスの接着面を掃除機などでよく清掃した後、ドライアウト防止のため必ず適度に水で濡らして下さい。



接着面にモルタルを充分塗り付けて下さい。塗むらなく、必ず全面に均一に練りつけて下さい。

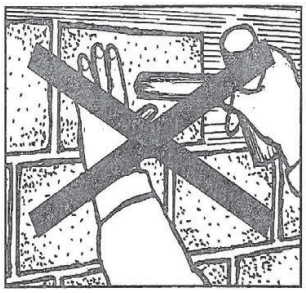


壁面に強くすりこむように貼り付けます。壁面側にもモルタルを塗る改良圧着張りをして頂くと、さらに強固な接着となります。接着剤で貼り付けられる際も、必ずもみ込むように貼付下さい。



貼り付け後、ネオエックスを充分乾燥させ、その後に表面の砂を真空掃除機やブラシ等で掃除を行って下さい。
特に、内装材として施工された場合は落ちなくなるまで丁寧に掃除を行って下さい。
※濡れたままで清掃を行うと乾燥した後に砂が落ちてきます。

■剥離の原因



※『壁面側のみ』にモルタルを塗った『圧着貼り』は
脱落の原因となりますので絶対に行わないで下さい。
また、使用されるセメントモルタル・接着剤の規定している所定の養生期間を厳守下さい。

■外壁・撥水処理

●抗火石は吸水性の高い石材の為、防水に関しては、必ず石貼り以前の段階で処理して下さい。

●外部使用の場合は撥水処理を施して頂くと撥水効果だけでなく汚れ防止にもなりますので推奨します。

■諸注意

●色むらの出やすい石の為、開梱後に色が均等に散るように割り付け下さい。

●下地に関しては現場打ちコンクリートを標準として考えています。
それ以外の下地に施工される際は、各メーカーの施工要領に従い、抗火石の重量に充分耐えられる堅固な下地を施工頂いた上でご施工下さい。

●施工完了後には、必ず掃除機で石を清掃下さい。多孔質な石の為、石目に入り込んでいる石粉を清掃頂かないと石本来の色つやが出ず、汚らしくなります。

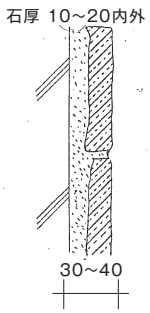
諏訪鉄平（壁面推奨施工）

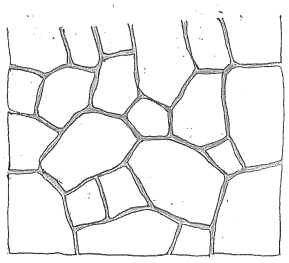
施工要領

1 壁コンクリート面を清掃して、散水してから施工して下さい。

2 施工モルタルには、剥離を防止する為、市販の接着増強剤を混合して、施工する方法をお薦めします。

3 水は油、酸、塩類、有機物質を含まない清浄なものをご使用下さい。





目地は8~13程度とします。

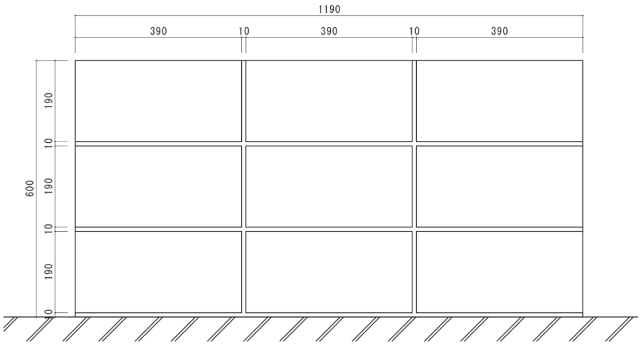
混合モルタルは、ダンゴ貼りで20Kg以上の圧力で練り圧着をして下さい。

メティリーストーン

施工要領 寸法図

①基礎壁

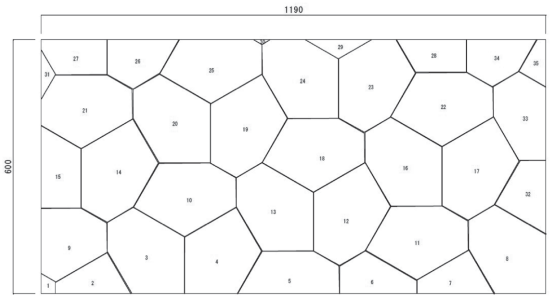
・基礎壁を用意する。



※推奨基礎壁はブロック3列3段になります。
※推奨ブロックサイズは390x190x120の使用としております。

②基本面の施工

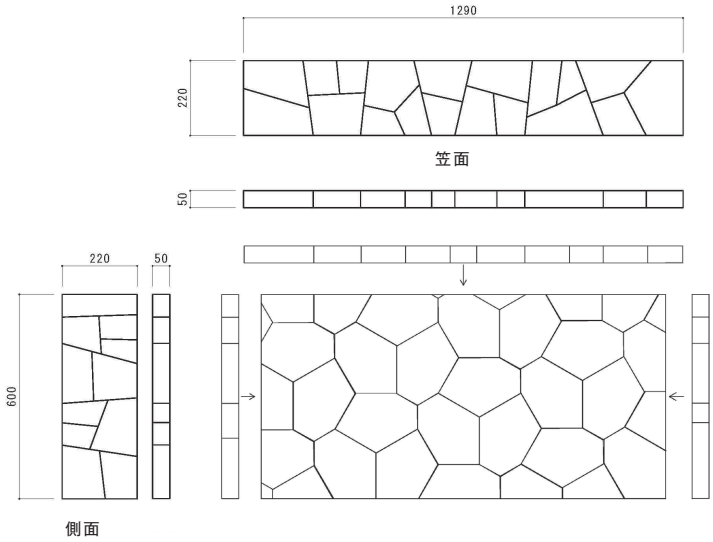
・仮並べ、圧着施工していきます。
・材料は木枠の中に下図の状態で梱包されています。
・下から番号順に部材を取り出し圧着モルタルにて施工していきます。



・手加工品の為、寸法誤差がございますのでクサビ、養生テープを使いながら隙間を調整して下さい。
※季節により圧着モルタルの硬化時間が異なるのでご注意下さい。

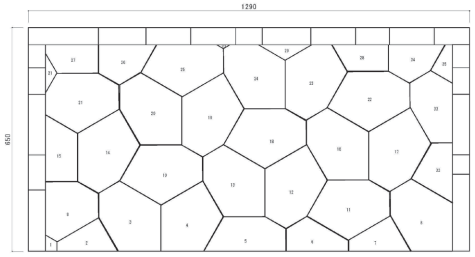
③側面、笠面の施工

・側面、笠面を施工後、ロープ、テープ等で仮固定を行い、モルタルが硬化するまで養生を行う。

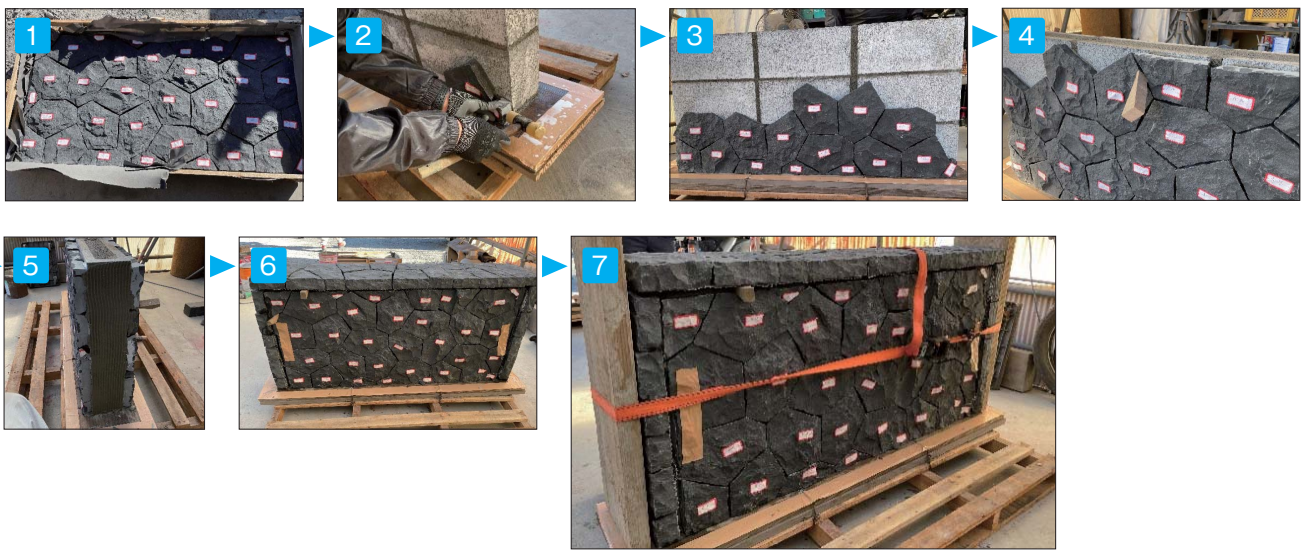


④仕上げ

・モルタルの硬化を確認後、仮固定していたロープ、テープ等を取り外し完成になります。



【施工手順例】

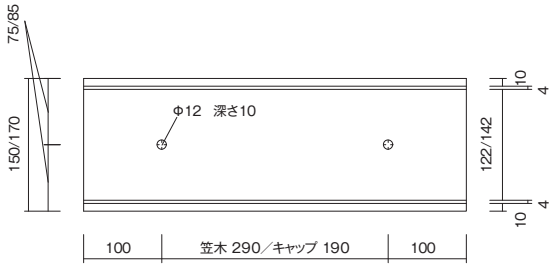


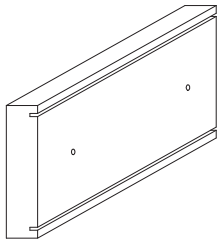
ブイグラニット／アーバングラニット

寸法図

【ブイグラニット、アーバングラニット笠木・ブイグラニット、アーバングラニットキャップ】

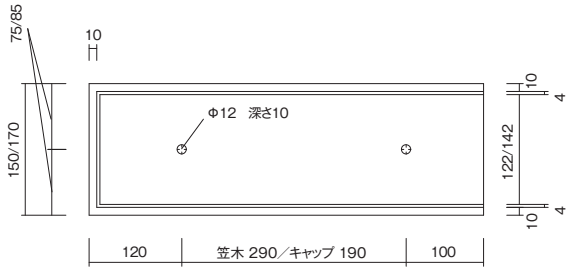
150/170 基本

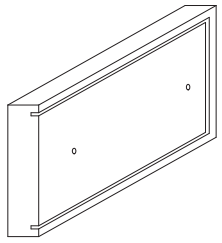




※裏面参考図

150/170 コーナー



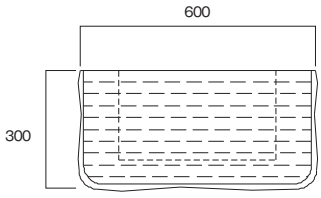


※裏面参考図

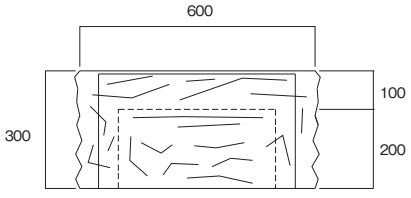
【沓脱石】

6-3-3

平面図

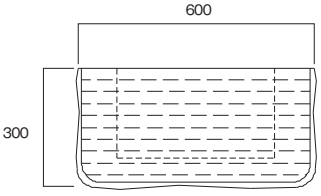


側面図

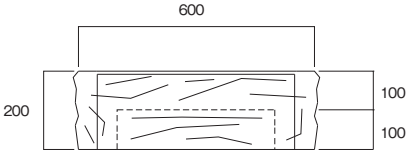


6-3-2

平面図



側面図



ドロップネット

＜参考＞ 施 工 手 順

はじめに

- 原則として、1日目に手順1～２、2日目に手順3～4を施工してください。接着用モルタルの硬化が早い場合には、同日中の施工は可能ですが、砂利の欠落が起きないよう十分注意してください。
- 施工中や施工直後に貼付けた本品の上に乗ることは可能ですが、スリ足や道具を引きずるような行為は本品シートのズレや砂利の欠落の原因となりますので注意してください。
- 下地の不陸調整(凹凸を平らにする処置)、ひび割れ修復、及び清掃は事前に終わらせておいてください。
- 本品のほかに、次の材料・道具をご用意してください。(※)
  - □ 接着用セメント・モルタル
  - □ 目詰用セメント・モルタル(目地材)
  - □ クシ目鏝
  - □ ゴム鏝
  - □ タイル用タタキ板(タタキ鏝)
  - □ 刷毛，左官ブラシ
  - □ スポンジ(洗い出し用)
  - □ ハンドミキサー(かくはん機)
  - □ 練り樽，練り用バケツ
  - □ バケツ(スポンジを洗う用)

1. 接着用モルタルの塗付け

① コンクリート・モルタル仕上げの下地(接着面)に湿らす程度に水打ちして、接着をより良くしたい場合は、プライマー・シーラーといった調整材を塗布します。

② 水と混錬した接着用モルタルを、クシ目鏝を使い、厚みが均一になるように塗り付けます。
厚みは、本品砂利の高さの1/3程度を目安にします。
・接着用モルタルは、クシ目鏝で塗付けた時に凹凸が崩れない程度の固さに練り合わせてください。
・端までの塗り付けが不十分の場合、浮きや剥がれの原因となりますので注意してください。

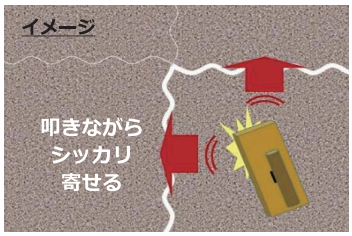
Point-1
接着用モルタルは、仕上げの目詰用モルタルの色に同じ(もしくは近い)色合いのものを使用してください。

2. 本品の貼付け

① １枚目を角に置き、タイル用タタキ板等で叩きながら貼り付け、２枚目以降は隣のシートに沿うように置き、隣との境目を詰める(寄せる)ように叩いて貼り付けます。砂利が重なり盛り上がってしまう場合、タタキ板で叩いて平らに均します。

② 端の部分など、本品の大きさが合わない箇所はカッター等で切断し大きさを合わせます。

③ 端の部分や砂利が欠落した部分の隙間等は、備え付けの予備砂利を埋めて補修します。



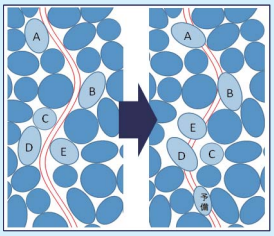
※各種材料・道具は、それぞれのメーカーが定める使用方法・注意事項をよく読み、ご使用ください。

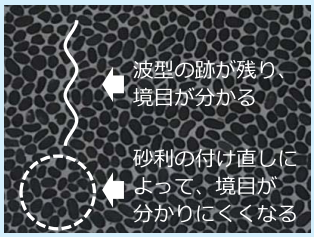
Point-2

接着用モルタルが、境目や砂利の間から表面に出過ぎた場合、硬化する前にブラシで掻き取り、スポンジで拭き取るなど必ず対処してください。そのまま硬化した場合、仕上り時に「境目が目立つ」「砂利の表れ方にムラがある」といった仕上りの原因になります。

Point-3

シートを貼り付けた際にシートの縁にある砂利をいくつか取り外し、向きを変えて無作為に付け直すと、仕上り時のシート境目が目立ちにくくなります。特に「 フシミ 」のような単色の色合いのものは、境目が比較的目立ちやすくなりますので、効果的です。





3. 目詰用モルタルの塗付け

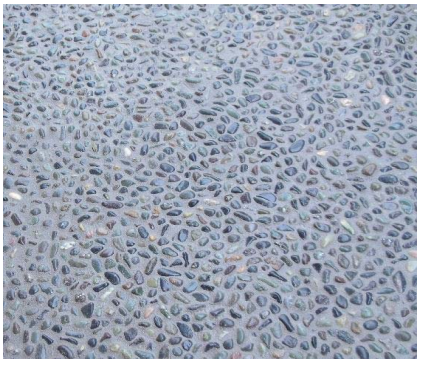
① 水と混錬した目詰用モルタルを、ゴム鏝を使い、砂利の隙間がしっかり詰まるように塗り付けます。砂利が完全に隠れる様にまんべんなく塗ります。
② 刷毛やブラシを使って表面の余分なモルタルを掻き取り、砂利の立体感が出るように厚みを調整します。
・目詰用モルタルを塗り過ぎると次工程の洗い出し作業が困難になりますので注意してください。
・手順1.~3.を同日に行った場合、塗付け時に力を入れすぎると本品シートが動いてしまったり、砂利が欠落してしまうことがありますので注意してください。

Point-4

仕上り時に「巣穴」「ピンホール」といった気泡の穴ができないように、しっかり押え込みながら塗り付けてください。

4. 洗い出し

① 刷毛やブラシを使って水を打ちながら擦り、表面のモルタルを柔らかくします。(「アマ出し」の作業)
② スポンジ等で砂利表面の柔らかくなったモルタル(アマ)を綺麗に拭き取り仕上げます。
(刷毛・スポンジを使い、きれいな水で繰り返し拭き取ります。)
③ 砂利が欠落した部分の隙間等は、備え付けの予備砂利を埋める等をして補修します。



「簡単」「スピーディ」な施工、そして「美しい」仕上がりを
この **- ドロップネット -** でぜひ実感してみてください。